

新田 収, 八木麻衣子, 大谷 健(編)

理学療法スタートライン はじめての臨床 脳血管障害

高久徳子

(東京都立墨東病院リハビリテーション科)

1998 年に理学療法士養成校が全国で 100 校を超えたのを皮切りに、養成校・卒業生ともに増え続け、今年度の理学療法士有資格者は 8 万人を超えています。2008 年度からは年 1 万人に近いペースで新人理学療法士が誕生しています。新人理学療法士の皆さんは、臨床現場に出てどのような本を参考にされているでしょうか。

本書は、学生時代には決して優秀とはいえなかった新人理学療法士「三四郎」が登場し、就職前夜から激闘の 3 か月の物語形式で第 1 章が始まります。そこには、新人の皆さんが感じた不安や戸惑いなどがそのままに描かれています。そして、三四郎が次々と問題にぶつかりながらも成長していく姿は、皆さん自身と重ね合わせることができるのではないのでしょうか。

理学療法の評価や手技、疾患別に書かれた書籍は数多くありますが、自分自身の体験と共感できるという点では新人理学療法士にとってお薦めの一冊といえます。

第 2 章の「道標となる大切な項目」では項目ごとに、

経験の浅い理学療法士がつまづきそうなポイントや注意点を簡潔にまとめてあります。本書は、脳血管障害の理学療法におけるすべてを完全に網羅しているものではありません。しかし、項目ごとに参考文献が記載されており、必要であればそこから自分で掘り下げていくことができるようになっています。参考文献も基礎編と発展編に分かれて記載されており、自分の必要レベルに応じて探すことができるでしょう。

新人の中には先輩とのコミュニケーションに悩んでいる方も少なからずいるのではないのでしょうか。第 3 章の「スーパーバイザーからのメッセージ」を読んでいただくことで、自分に指導者としてついてくれている先輩の言葉の意味を理解しやすくなるのではないかと思います。

臨床で新人の指導者として日々奮闘している先輩方も沢山いることでしょう。経験を積んでいくと初心に帰ることがなかなか難しくなります。本書に登場している「三四郎」の不安やつまづきは、先輩方の新人時代の苦い経験を思い出させてくれるものではないのでしょうか。そんな気持ちを思い出して、時に優しく時に厳しく新人指導に当たっていただくことが、理学療法士の今後の発展につながると願います。

●A5 判・238 頁・2 色刷

定価 3,990円(3,800 円+税)

2010 年 6 月 南江堂・刊